

	重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計	成果と課題及び改善策等	判定基準	備 考
1	地域・生徒・保護者の期待と信頼に応える学習指導と進路実現のため、GIGAスクール構想の推進と家庭学習習慣の確保をとおして、「確かな学力の育成」を図る。	①生徒が主体的に授業に取り組めるように授業改善に取り組む。	教務課 各学年 各教科	授業改善に取り組んでいるが、生徒が主体的・協働的に活動する場面がまだ十分ではない。	【成果指標】 生徒による授業評価を実施し授業改善に努める。 A 90％以上 B 85％以上 C 80％以上 D 80％未満	授業がわかりやすいと答えた生徒の割合が、 A 90％以上 B 85％以上 C 80％以上 D 80％未満	B 89.7%	《成果》授業がわかりやすい項目に、「とても当てはまる」、「やや当てはまる」と答えた生徒が89.7%であった。 【課題】残りの10.3%の生徒に対して、適切な指導が必要。 『改善策』授業評価アンケートをもとに各教員が授業を振り返る。また各教員が生徒がわかりにくいと感じている部分を把握し、個別指導等で対応する。	C以下の場合 は取組を改善する。	生徒へのアンケート
		②家庭学習時間調査と個人面談を行うことで家庭学習習慣の定着を図り「確かな学力」を育成する。	教務課 各教科 各学年	家庭学習習慣が身についていない生徒、家庭学習時間が不十分な生徒が多く、家庭学習習慣の定着が求められている。	【努力指標】 生徒が主体的、協働的に活動できる場面を取り入れている。 ア.よく取り入れている。イ.やや取り入れている。 ウ.あまり取り入っていない。エ.取り入っていない。 A アとイの合計が80％以上 B アとイの合計が70％以上 C アとイの合計が60％以上 D アとイの合計が60％未満	授業ではクロームブックを有効に活用したり、生徒がアクティブラーニングやグループ活動など主体的・協働的に活動できる場面を、 ア.よく取り入れている。イ.やや取り入れている。 ウ.あまり取り入っていない。エ.取り入っていない。 A アとイの合計が80％以上 B アとイの合計が70％以上 C アとイの合計が60％以上 D アとイの合計が60％未満	B 78.2%	《成果》23名中18名の教員が、クロームブックを有効に活用したり、生徒が主体的・協働的に活動できる場面を取り入れていると答えた。 【課題】「やや取り入れている」と答えた教員の割合が54.5%である。「あまり取り入れられていない」と答えた教員の割合が21.7%であった。 『改善策』各教員がICT機器の有効な活用方法を研究し、授業に積極的に活用する。	C以下の場合 は取組を改善する。	教員へのアンケート
					【努力指標】 授業改善に生かす目的を持って互見授業に参加した。 A 6回以上参加した。 B 5回以上参加した。 C 4回以上参加した。 D 4回未満参加した。	授業改善に生かす目的を持って、互見授業に、 A 6回以上参加した。 B 5回以上参加した。 C 4回以上参加した。 D 4回未満参加した。	D 3.2回	《成果》1学期は21名の対象中、5回以上は6名、4回以下15名で平均3.24回であった。 【課題】回数の少ない教員がいる。 『改善策』校内で実施される研究授業を見学したり、地域の小中学校と連携して授業見学の機会を設け、積極的に参加し、各教員が授業改善に生かす。	C以下の場合 は取組を改善する。	教員へのアンケート
					【成果指標】 普通科では学年+30分の家庭学習が確保された。 100％達成の生徒数をa 80％以上達成の生徒数をb 60％以上達成の生徒数をc 60％未満の生徒数をdとし、段階的に評価する。 (1.0×a+0.9×b+0.7×C+0.5×d)÷31×100(％) で計算した結果、学習時間を達成できている人数の割合が A 80％以上である B 70％以上である C 60％以上である D 60％未満である	〔普通科1年〕 90分の家庭学習に対する取り組み状況が、 100％達成の生徒数をa 80％以上達成の生徒数をb 60％以上達成の生徒数をc 60％未満の生徒数をdとし、段階的に評価する。 (1.0×a+0.9×b+0.7×C+0.5×d)÷31×100(％) で計算した結果、学習時間を達成できている人数の割合が A 80％以上である B 70％以上である C 60％以上である D 60％未満である	B 75.4%	《成果》大学進学に対して明確な目標がある生徒の学習時間が確保されている。 【課題】進路に対して目標が定まっていない生徒の学習時間が少ない。 『改善策』自分の将来の進路とそれに向けて何を学ぶべきかを考えさせる。また、小テストなど学習成果の出やすいものを利用し、達成感を味あわせるとともに勉強に対して必要性や有用性を実感させる。	C以下の場合 は取組を改善する。	月毎にクラスの学習記録を集計
					【成果指標】 普通科では学年+30分の家庭学習が確保された。 100％達成の生徒数をa 80％以上達成の生徒数をb 60％以上達成の生徒数をc 60％未満の生徒数をdとし、段階的に評価する。 (1.0×a+0.9×b+0.7×C+0.5×d)÷24×100(％) で計算した結果、学習時間を達成できている人数の割合が A 80％以上である B 70％以上である C 60％以上である D 60％未満である	〔普通科2年〕150分の家庭学習に対する取り組み状況が、 100％達成の生徒数をa 80％以上達成の生徒数をb 60％以上達成の生徒数をc 60％未満の生徒数をdとし、段階的に評価する。 (1.0×a+0.9×b+0.7×C+0.5×d)÷24×100(％) で計算した結果、学習時間を達成できている人数の割合が A 80％以上である B 70％以上である C 60％以上である D 60％未満である	C 66.7%	《成果》国公立大学を目指す生徒を中心に学習時間が増えた。 【課題】学習の必要性を感じていない生徒と、必要と分りながらも実行できない生徒がいる。 『改善策』面談を通して上記の点を論していく。また、明確な進路先を決めていく。	C以下の場合 は取組を改善する。	月毎にクラスの学習記録を集計
					【成果指標】 普通科では学年×1時間の家庭学習が確保されたか。 180％達成の生徒数をa 100％達成の生徒数をb 80％以上達成の生徒数をc 60％以上達成の生徒数をdとし、段階的に評価する。 (1.0×a+0.9×b+0.7×C+0.5×d)÷37×100(％) で計算した結果、学習時間を達成できている人数の割合が A 80％以上である B 70％以上である C 60％以上である D 60％未満である	〔普通科3年〕 180分の家庭学習に対する取り組み状況が、 100％達成の生徒数をa 80％以上達成の生徒数をb 60％以上達成の生徒数をc 60％未満の生徒数をdとし、段階的に評価する。 (1.0×a+0.9×b+0.7×C+0.5×d)÷37×100(％) で計算した結果、学習時間を達成できている人数の割合が A 80％以上である B 70％以上である C 60％以上である D 60％未満である	C 60.8%	《成果》上級学校への進学を志している生徒には、十分な家庭学習時間を確保している者が多い。 【課題】家庭学習を十分に組み合わせていない生徒がまだ多い。 『改善策』家庭学習時間はまだ少ないが、少しずつ学習時間を増やしている生徒が多い。ほとんどの生徒が部活動にも区切りがつき、ここからさらに希望進路に意識を向けさせ、家庭学習に取り組ませていく。	C以下の場合 は取組を改善する。	月毎にクラスの学習記録を集計
					【成果指標】 地域産業科では提出物を期限内に提出することができた。 ア.必ず提出した。イ.ほとんど提出した。 ウ.あまり提出していない。エ.提出してない。 と答えた生徒の割合が、 A ア.イの合計が90％以上 B ア.イの合計が80％以上 C ア.イの合計が70％以上 D ア.イの合計が70％未満	〔地域産業科1年〕 提出物や課題を提出期限内に、 ア.必ず提出した。イ.ほとんど提出した。 ウ.あまり提出していない。エ.提出してない。 と答えた生徒の割合が、 A ア.イの合計が90％以上 B ア.イの合計が80％以上 C ア.イの合計が70％以上 D ア.イの合計が70％未満	B 80.0%	《成果》コース選択や自分の進路意識が高まり、期限内に提出する生徒が増加した。 【課題】スケジュール感がなく、期限に間に合っていない生徒がいる。 『改善策』手帳等を効果的に活用し、各教科等の提出物の期限などをメモさせることで提出率をあげていく。	C以下の場合 は取組を改善する。	生徒へのアンケート
					【成果指標】 地域産業科では提出物を期限内に提出することができた。 ア.必ず提出した。イ.ほとんど提出した。 ウ.あまり提出していない。エ.提出してない。 と答えた生徒の割合が、 A ア.イの合計が90％以上 B ア.イの合計が80％以上 C ア.イの合計が70％以上 D ア.イの合計が70％未満	〔地域産業科2年〕 提出物や課題を提出期限内に、 ア.必ず提出した。イ.ほとんど提出した。 ウ.あまり提出していない。エ.提出してない。 と答えた生徒の割合が、 A ア.イの合計が90％以上 B ア.イの合計が80％以上 C ア.イの合計が70％以上 D ア.イの合計が70％未満	B 85.5%	《成果》多くの生徒が提出物を期限内に出すことができている。 【課題】特定の生徒が提出できていない。 『改善策』来年次に向けて、提出物の重要性を伝え、できない生徒にはこまめに声掛けを行っていく。	C以下の場合 は取組を改善する。	生徒へのアンケート
					【成果指標】 地域産業科では提出物を期限内に提出することができた。 ア.必ず提出した。イ.ほとんど提出した。 ウ.あまり提出していない。エ.提出してない。 と答えた生徒の割合が、 A ア.イの合計が90％以上 B ア.イの合計が80％以上 C ア.イの合計が70％以上 D ア.イの合計が70％未満	〔地域産業科3年〕 提出物や課題を提出期限内に、 ア.必ず提出した。イ.ほとんど提出した。 ウ.あまり提出していない。エ.提出してない。 と答えた生徒の割合が、 A ア.イの合計が90％以上 B ア.イの合計が80％以上 C ア.イの合計が70％以上 D ア.イの合計が70％未満	A 95.5%	《成果》ほぼすべての生徒が提出物を期限内に出すことができている。 【課題】少ないが提出できていない生徒がいる。また、必ずではない生徒が半数くらいいる。 『改善策』LHR、面談等で提出物をはじめとした、基本的な生活習慣に対する意識を向上させていく。	C以下の場合 は取組を改善する。	生徒へのアンケート

	重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計	成果と課題及び改善策等	判定基準	備 考
		③ 各課・各教科と学年団との連携と情報の共有化により生徒個々に応じた多面的な進路指導を行い、生徒が進路実現に向けて意欲的に学習などに取り組める環境づくりを進める。	進路指導課 各学年	進路希望先を具体的に決定するのが遅れるため、進路実現に向けて準備期間が不十分になる傾向がある。	【成果指標】 年度末までに おおまかに進路目標を定め、次の行動を意識することができた。	〔1年〕 年度末までに、進学はおおまかに上級学校を、就職はおおまかに職種を定め、次の行動を意識できた生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	D 50.0%	≪成 果≫LHRや個人面談を通して将来設計を意識させ、就職と進学について考えさせることができた。 【課 題】具体的な将来像が描けておらず、進学・就職に関する知識が不足している。 『改善策』LHR、個人面談、進路ガイダンスなどをきっかけに、自分の進路に関わる興味・関心・知識を高めさせる。	C 以下 の 場 合 は 取 組 を 改 善 す る。	進路希望調査 生徒へのアンケート
					【成果指標】 年度末までに 具体的に進路目標が定まり、実現に向け準備を始めた。	〔2年〕 年度末までに、進学は具体的な上級学校を、就職は具体的な職種を定め、実現に向けて準備を始めた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	D 63.9%	≪成 果≫LHR、個人面談を通して、進学・就職先の見通しを持たせることができ、進路について考えさせるきっかけを作ることができた。 【課 題】進路選択に繋げるための、具体的な将来像のイメージ作りが不十分である。 『改善策』2学期以降チューター制度を取り入れ、自分の将来像に基づいた進路希望を決定することを目標に、個人面談や進路情報収集を通して、進路希望決定の意識を高めさせる。	C 以下 の 場 合 は 取 組 を 改 善 す る。	進路希望調査 生徒へのアンケート
					【成果指標】 進路先決定に向けて十分な準備をしている。	〔3年〕 就職・進学において、合格を得るために十分な準備をしていると回答した生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 78.9%	≪成 果≫個人面談や夏季補習期間を通して就職先や進学先を決定し、必要書類を準備することができた。 【課 題】推薦入試や就職試験対策として、作文練習や面接練習がまだまだ不足している。 『改善策』作文と面接の練習を生徒に促すとともに、その練習の場を積極的に設けていく。	C 以下 の 場 合 は 取 組 を 改 善 す る。	生徒へのアンケート
		④ 進路指導課と1年学年団・担任との連携により、進路面接の質を高め、面談回数を増やすことで進路目標の早期決定を促す。	進路指導課 第1学年	進路目標の設定が遅れ、自己実現のために授業や総合的な探究の時間を有効に活用できていない生徒がいる。	【努力指標】 生徒の進路意識を高めるために生徒との個人面談を実施した。	生徒一人一人との個人面談回数が、 A 6回以上 B 5回以上 C 4回以上 D 4回未満	D 3.0回	≪成 果≫文理選択やコース選択に向けて、時間をかけた面談を行うことができた。 【課 題】適切な文理選択やコース選択のために、一人ひとりの時間がかかっている。 『改善策』担任だけでなく、副担任とも協力して面談を行っていく。	C 以下 の 場 合 は 取 組 を 改 善 す る。	個人面談数調査 生徒へのアンケート
		⑤ 今後を見据えた進路指導に取り組み、具体的な進路目標の決定を面談を利用して促すことによって「確かな学力の育成」を図る。	進路指導課 第2学年	目標が定まらず進路実現へ向けての具体的な取り組みが足りない。進路決定に向けて授業を有効に活用していない生徒への指導が必要である。	【努力指標】 生徒の進路意識を高め具体的に進路を決定するために生徒との個人面談を実施した。	生徒一人一人との個人面談回数が、 A 7回以上 B 6回以上 C 5回以上 D 5回未満	D 3.0回	≪成 果≫面談週間や昼食時などの時間を利用し、生徒一人当たり3回の面談を行い、具体的な進路について話をすることが出来た。 【課 題】一部の生徒で具体的な学校や企業を決めることが出来ていない。 『改善策』後期の面談週間や休み時間を利用し、生徒との面談を通して進路に対する意識を高めていく。	C 以下 の 場 合 は 取 組 を 改 善 す る。	個人面談数調査 生徒へのアンケート
		⑥ 一人一人の進路目標に対するきめ細やかな指導を目指すべく個人面談をきめ細かに実施する。	進路指導課 第3学年	学業や部活動の両立を目指し、実際に両立させている生徒が徐々に増えつつある。目標意識の高揚も併せて、実力養成のための補習、資格試験、模擬試験においても頑張りを見せている。個人レベルでの自主・協調の研鑽を一層積みさせる必要がある。	【努力指標】 生徒の進路実現に向けて個人面談を実施した。	生徒一人一人との個人面談回数が、 A 7回以上 B 6回以上 C 5回以上 D 5回未満	D 3.5回	≪成 果≫進路決定に向けて、必要に応じて生徒との面談を行っている。まだ回数は少ないが、年間のペースでは予定通りである。 【課 題】面談の際に生徒と保護者の相談がされていない場合があり、1度の面談で話を進められないことがある。 『改善策』生徒の進路に対する意識を高めさせ、保護者との相談をしつかりしていくようにさらに呼びかけを強めていく。	C 以下 の 場 合 は 取 組 を 改 善 す る。	担任へのアンケート
2	安全・安心な学校づくりの推進と地域みらい留学365による交流を通じて、変化する社会に対応できる精神的な逞しさを備えた「人間力の育成」を図る。	① 生活時間を自律的に管理できる5分前行動（登校）の一つとして「遅刻0（ゼロ）の日」運動に全校生徒で取り組む。	生徒指導課 生徒会 各学年	「遅刻ゼロ運動」の取組も5年目となり、理由のない遅刻は減ってきたが、遅刻ぎりぎりの登校が各学年各クラスに若干名みられる。今年度も全校生徒で遅刻ゼロの日が増えるよう運動を続ける。余裕をもった登校が安定した学校生活につながり、時間を上手に管理する習慣を身につけさせたい。	【成果指標】 毎日の「遅刻0の日」の集計結果を生徒玄関の掲示板に示し、全校生徒が意識して取り組んだ。	遅刻0（ゼロ）の日が年間合計で、 A 140日以上（約72%） B 130日以上 C 120日以上 D 120日未満	1学期終了時 登校すべき日数68日 遅刻ゼロの日59日 達成率86.7%	≪成 果≫昨年度は遅刻ゼロの日は55日達成率(79.17%) 1学期は生徒会と生活委員が月曜日と金曜日に、挨拶運動に積極的に参加している。 【課 題】遅刻する特定の生徒が数名おり、遅刻ゼロの日の日数が増えない。 『改善策』生徒会・生活委員による挨拶運動及び登校指導で生徒を迎える。特定の生徒には、担任と連携して指導と保護者協力を求める。	C 以下 の 場 合 は 取 組 を 改 善 す る。	毎日の出欠調査
		② 「いじめ調査」を月末に実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努める。	生徒指導課 各学年	いじめ調査アンケートからでは見えない部分もあることを認識し注意を怠らない。学期はじめの面談週間や相談しやすい雰囲気づくりを心がける。また、メール等による誹謗・中傷などのいじめはなかなか発見しにくく、すべての教職員で生徒を見守る必要がある。	【努力指標】 いじめを見逃さない学校づくりに取り組んだ。	日頃から、いじめ調査や巡回指導、面談や見守り・声かけなど、いじめを見逃さない学校づくり（いじめの未然防止、早期発見、早期解決）に取り組んでいる。 ア. よく当てはまる。 イ. やや当てはまる。 ウ. あまり当てはまらない。 エ. 当てはまらない。 A ア. イの合計が95%以上 B ア. イの合計が90%以上 C ア. イの合計が80%以上 D ア. イの合計が80%未満	A 100%	≪成 果≫朝の挨拶運動や交通安全運動、SH時や授業での教室巡回や昼食時の校内巡視、担任や部顧問の面談週間、毎月のいじめ調査アンケートなど、すべての職員で生徒を見守ることを意識して取り組んだ。(教職員アンケートで、昨年は、92.6%。今年度前期は26名／26名、が、ア、イ、に回答) 【課 題】全教員が協力して取り組んでいるが校務等が重なり、時間の確保や調整が難しくなっている。 『改善策』すべて教職員の連携や協力体制で取り組めるよう調整する。また、生徒会などの活動からも、いじめを見逃さない風通しのよい学校全体の雰囲気づくりにつながる活動を働きかける。	C 以下 の 場 合 は 取 組 を 改 善 す る。	教員へのアンケート

	重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計	成果と課題及び改善策等	判定基準	備 考
		③生徒会の「元気で活力ある健全明朗な学校づくり」の目標を実現するため、PTA等の協力も得て生徒がすすんで挨拶する運動を実施する。	生徒会各学年生徒指導課PTA	前期・後期アンケート結果で、生徒が自らすすんで挨拶をしていると回答している割合はA評価である。今年度も「おはよう！声かけ運動」の伝統を継続して行く。各学年においてもSH時や学年集会で大きな声で挨拶できる指導を続ける必要がある。	【成果指標】自分から進んで挨拶をしている生徒が増えた。	「自分からすすんで挨拶している。」と回答した生徒の割合が、 A 95％以上 B 85％以上 C 75％以上 D 75％未満	B 93.3%	《成果》生徒アンケートで9割以上の生徒が自分から進んで挨拶していると回答している。 【課題】生徒アンケートの結果、昨年度前期は94％であり、自分から進んで挨拶する生徒が微減している。 『改善策』学年や生徒会、進路指導と連携を図りながら、登校時「おはよう！声かけ運動」、SH時の挨拶指導や学年集会、面接指導等を通じて指導する。教員から挨拶をすると、ほぼ全員が挨拶をすることから、挨拶をしない生徒には教員から挨拶する。	C以下の場合は取組を改善する。	生徒へのアンケート
3	地域における6次産業の担い手として、「地域産業の振興に貢献できる人材の育成」を図る。	①講演会・講習会や企業人インタビュー（DV D）、産業連携事業などの各種取組をとおして、地域社会に貢献できる人材を育てる。	地域産業科	毎年、各種行事を実施し事後指導として感想文を書いているが、生徒の意識変化を分析していない。	【成果指標】活動をとおして生徒の地域社会に貢献する意識が高まった。	地域社会に貢献しようという意識が高まった生徒の割合が、 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	A 90.0%	《成果》思うように行事が実施できていないが、少ない行事の中でもある程度成果が得られている。 【課題】コロナ渦で行事等が思うようにできず、データ数が少ない。 『改善策』リモート等でもよいので行事を実施し、生徒の意識が高まるよう指導していく。	C以下の場合は取組を改善する。	生徒へのアンケート
		②保護者や地域の方に能登高校の理解を深めてもらい、行事に参加してもらうことで本校の人材育成に協力してもらう。	総務課	「能登高だより」の配布や能登町広報誌「のど広報」に連載することによって学校理解に効果があると考えられる。今年度も来校者を一層増やす工夫が求められている。様々なイベント等をからめ、PTAの参加人数を増加させていきたい。	【成果指標】来校する保護者・地域住民が増えた。	来校された保護者・地域の方（学級懇談会・能登高祭・能登高商店開店時・教育ウィーク・PTA行事等）の人数の合計が、 A 1400人以上 B 1200人以上 C 1000人以上 D 1000人未満	D 223人	《成果》人数制限がある中、入学式、PTA理事会、おはよう声かけ運動、保護者懇談会等に積極的に参加していただいた。 【課題】来校者の人数制限やイベントの自粛のため、地域住民の方に生で本校生徒が活躍する姿を見ることができなかった。 『改善策』従来の広報活動に加え、有線放送やマスコミ等への取材依頼を増やす。	C以下の場合は取組を改善する。	行事毎の人数調査
	全教職員が生徒に寄り添い、生徒が安心できる居場所の確保に努める。	③記名式アンケートにより個に対応できる態勢を整え、スクールカウンセラー等にも協力を仰ぎ、全教職員で、全ての生徒が「相談できる人がある」と感じることができるようにする。	保健厚生教育相談	昨年度末のアンケート結果によると大部分の生徒が「相談できる相手があり、その人は親身になって対応してくれる」と感じている。しかし、不安感をかかえ、保健室を利用する生徒が増えてきている。	【満足度指標】「親身になって対応してくれる人がある。」と感じている生徒の割合が増える。	「親身になって対応してくれる人がある。」と感じている生徒の割合が、 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	A 97.1%	《成果》97.1%の生徒が期待も含めて「親身になって対応してくれる」と答えている。アンケートに回答したほぼ全員が面談したい教職員を挙げている。 【課題】97.1%のうち10.1%が「相談にのってくれると思うが話しにくい」と感じている。 『改善策』2学期の面談週間を担当だけでなく全教職員で対応する。	C以下の場合は取組を改善する。	生徒へのアンケート
4	部活動の強化と生徒会活動の活性化を進めるとともに、教職員の多忙化改善に取り組み、適正なワークライフバランスを図る。	①部活動加入後の積極的な活動を推進する。	生徒会	多くの生徒が部に加入しているが、所属だけにとどまる生徒も見られ、生徒全員が積極的に部活動に取り組むよう指導する必要がある。	【成果指標】部活動に加入後も、積極的に活動していた。	積極的に部活動を行っている生徒の割合が、 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	A 93.3%	《成果》生徒アンケートで昨年前期は、86.5%の生徒が積極的に部活動を行っていると回答している。 【課題】全員加入の部活動において、積極的に参加できなかったと回答した生徒もあり、生徒が参加しやすい部活動の在り方を模索する。 『改善策』部活動に積極的に参加できなかった部員と面談し、生徒自身が目標を設定し、参加する場面や機会を設ける。各部の顧問と連携し、部活動を監督することで、部員の活動が見られていることを生徒に意識させる。	C以下の場合は取組を改善する。	生徒へのアンケート
		②教職員の多忙化改善に取り組む。	教頭	年々、本校職員の時間外勤務時間は減少傾向にあるが、部活動指導や生徒の質問対応などにより個人差が大きいのが現状である。生徒と向き合う時間を確保しつつも、その他の業務内容の見直しを行うなどの効率化により、ワークライフバランスを図る必要がある。	【成果指標】適正な退庁時間で、帰宅していた。	職員の勤務時間外勤務時間の平均が、 A 45時間以下 B 50時間以下 C 55時間以下 D 55時間より多い	B 45時間48分	《成果》昨年同時期より月平均4時間7分増加しているが、6・7月は80時間を超える職員はおらず、改善していると考えられる。 【課題】80時間を超える職員は減少傾向にあるが、45～80時間の職員はやや増えている。 『改善策』業務内容を精選し、業務の効率化、平準化を図るとともに、業務改善の意識をさらに高めるよう促す。	C以下の場合は取組を改善する。	時間外勤務時間調査